

令和元年度 学校関係者評価 報告書

【評価対象期間】

自:平成30年4月1日

至:平成31年3月31日

学校法人大原学園
大原こども専門学校
学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価委員会の実施状況

(1) 実施日時・場所

日時：令和元年8月8日(木) 15:00～16:00

場所：大原医療秘書福祉専門学校大宮校5階5A教室

(2) 学校関係者評価委員

① 学外委員

氏名	団体企業名	役職等
利根川 幸子	保育園アミ・クレイシュ	園長
大塚 弘美	社会福祉法人なないろ会 いちご桜保育園	園長
村上 貴紀	株式会社ルネサンス	
小島 孝浩	さいたま市大宮区宮町一丁目自治会	自治会長
小野寺 明佳	卒業生	—

② 学内委員(事務局)

氏名	団体企業名	役職等
羽深 義輝	学校法人大原学園	校長
若井 浩美	教務部	次長
西村 佳典	教務部保育・福祉課	課長補佐

③ 配布資料

- ・平成30年度 自己点検・評価報告書
- ・学校関係者評価委員会 会議資料
- ・学園案内
- ・学園長挨拶
- ・学園イベント(スポーツフェスティバル)ご案内

(3) 議題内容

平成30年度の自己点検・評価報告書を基準に、特に提言頂きたい重点項目を「基準4：学修成果」「基準5：学習支援」「基準6：教育環境」「基準10：社会貢献・地域貢献」とし、学校関係者評価委員へ事前に伝達した上で開催された。

2. 学校関係者評価委員会からの評価結果報告

(1) 基準1 教育理念・目標・育成人材像

① 自己評価の状況

中項目	小項目	自己評価
理念・目的・ 育成人材像	1-1-1 理念・目的・育成人材像は定め有れているか	定めている
	1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	80%
	1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	80%
	1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構造を抱いているか	70%

② 委員からの提言

- 大原の卒業生は他の教育機関と比較しても非常に特徴的であり、特にマナーや積極的に動く姿勢は非常に好感をもてる。さらに活躍できる人材を育成するためには主体的に考え行動できる学生を多く輩出できるようにしてほしい。

(2) 基準2 学校運営

① 自己評価の状況

中項目	小項目	自己評価
運営方針	2-2-1 理念に沿った経営方針を定めているか	定めている
事業計画	2-3-1 事業等を達成するための事業計画を定めているか	定めている
運営組織	2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	90%
	2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	90%
人事・給与制度	2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	80%
意思決定システム	2-6-1 意思決定システムを整備しているか	90%
情報システム	2-7-1 情報システム化に取り組み、業務効率化を図っているか	60%

② 委員からの提言

- 委員からの意見なし。

(3) 基準3 教育活動

① 自己評価の状況

中項目	小項目	自己評価
目標の設定	3-8-1 理念に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	定めている
	3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育達成レベルを明確にしているか	明確にしている
教育方法・評価等	3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	80%
	3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	70%
	3-9-3 キャリア教育を実施しているか	70%
	3-9-4 授業評価を実施しているか	70%
成績評価・単位認定等	3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	90%
	3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	80%
資格・免許の取得の指導体制	3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	80%
	3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	90%
教員・教員組織	3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	100%
	3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか	70%
	3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	80%

② 委員からの提言

<input type="checkbox"/> 様々な教育機関を見てきたが、大原のカリキュラム及び教材は非常に優れていると感じているので、現状に甘んじることなく現在の質をさらに向上できるよう体制を整えて頂きたい。
<input type="checkbox"/> 専門学校は社会と直結した教育機関であると考えているので、今、学習していることが、実社会(実務会)とどう繋がっているのかをしっかりと伝えてほしい。
<input type="checkbox"/> 教職員について通常業務が多忙なため、外部研修などスキル向上の機会が不足していると思われるので、組織的に人材育成を行う機会を設けてほしい。
<input type="checkbox"/> 同期入社には大学卒業生が多いが、大学生と比較して問題解決能力や話し合いながらグループとしての方向性を決定する際に、大学卒業生の方が優れているケースが目立つので、カリキュラムにグループディスカッションを入れるなど工夫してほしい。

(4) 基準4 学修成果

① 自己評価の状況

中項目	小項目	自己評価
就職率	4-13-1 就職率の向上が図られているか	90%
資格・免許の取得率	4-14-1 資格・免許取得率の向上が図られているか	80%
卒業生の社会的評価	4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	70%

② 委員からの提言

<input type="checkbox"/> 就職内定率は申し分ないので、就職した後にどれだけ活躍できるかを念頭に置いた教育(PCP)のウェートを上げてみてはどうか。
<input type="checkbox"/> 多くの資格を取得していることは大いに評価できるが、反面、資格取得ばかり先行して実質が伴っていないケースが見受けられる。(例として学校運営とは直接関係ないが自動車免許保有者なのに運転できずに業務に支障をきたす)
<input type="checkbox"/> 卒業生については、就職先での評価を把握するだけでなく、退職や転職など人生の転機となる場面にて大原としてサポートできるような体制を整えてみてはどうか。

(5) 基準5 学生支援

① 自己評価の状況

中項目	小項目	自己評価
就職等進路	5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	90%
中途退学への対応	5-17-1 退学率の低減が図られているか	60%
学生相談	5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	70%
	5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	—
学生生活	5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	70%
	5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	90%
	5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	50%
	5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	60%
保護者との連携	5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	70%
卒業生・社会人	5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	70%
	5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	60%
	5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	60%

② 委員からの提言

<input type="checkbox"/> 障害の疑いのある学生に対してカウンセラー配置などのサポート体制や医療機関への誘導手法を検討していくことを勧める。
<input type="checkbox"/> 学生の層も多様化している状況であるため、幅広い学生層へ対応できるよう職員の知識、対応方法につき研修の機会を増やしてみてもどうか。
<input type="checkbox"/> 実社会でも新入社員自身よりも保護者との対応に苦心するケースが多くなってきているので、学生対応のみならず保護者対応についても慎重な対応を心掛けてほしい。
<input type="checkbox"/> 退学懸念学生の見極めについて、担任による日々の目視によるとのことだが、ある程度のマニュアルがあると良いのではないか。
<input type="checkbox"/> 退学者抑制については色々と課題はあるが、友人関係など学生同士の良好な関係性があれば防げるケースが多いので、関係性構築の仕組みを考えてみてほしい。
<input type="checkbox"/> 卒業生への支援を組織的に実施してみたはどうか。特に大原学園では社会人向けの講座も運営しているので卒業生に向けてのスキルアップのために更に有効活用すべき。
<input type="checkbox"/> 最近特に栄養不足気味で元気のない学生が多いように感じている、食事の面での指導やサポートを検討してみてもどうか。

(6) 基準6 教育環境

① 自己評価の状況

中項目	小項目	自己評価
施設・設備等	6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	80%
学外実習、インターンシップ等	6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	90%
防災・安全管理	6-24-1 防災に対する組織体制を整備し適切に運用しているか	50%
	6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	70%

② 委員からの提言

<input type="checkbox"/> 学生を対象とした避難訓練の実施を検討して頂きたい。学生生活の安全を担保することが最重要であるが、実社会においても有事における対応などの危機管理能力は社会人として必要なスキルの一つであることを意識して頂きたい。
<input type="checkbox"/> 設備等についてデジタル化が進んでおり、PCでの管理からタブレットに移行している業務も多い状況であるので、設備導入に際して検討して頂きたい。
<input type="checkbox"/> 校舎設備の老朽化については随時、必要な改修を行い、教育の質を確保するためにも学生が快適に学べる状況を継続して頂きたい。
<input type="checkbox"/> 安全管理について、各校舎の出入りが自由に行える状態であるため、セキュリティー面での整備を検討してみてはどうか。

(7) 基準7 学生の募集と受入れ

① 自己評価の状況

中項目	小項目	自己評価
学生募集活動	7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	80%
	7-25-2 学生募集活動を適切かつ効果的に行っているか	80%
	7-25-3 留学生の受入れについて戦略をもって行っているか	—
入学選考	7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	80%
	7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	50%
学納金	7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	算定している
	7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか	行っている

② 委員からの提言

<input type="checkbox"/> 委員からの意見なし。

(8) 基準 8 財務

① 自己評価の状況

中項目	小項目	自己評価
財務基盤	8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	安定している
	8-28-2 学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	行っている
予算・収支計画	8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	策定している
	8-29-2 予算及び計画に基づき適正に執行管理を行っているか	行っている
監査	8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	実施している
財務情報の公開	8-31-1 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	70%

② 委員からの提言

委員からの意見なし。

(9) 基準 9 法令等の厳守

① 自己評価の状況

中項目	小項目	自己評価
関係法令、設置基準等の遵守	9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	90%
個人情報保護	9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	80%
学校評価	9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	行っている
	9-34-2 自己評価結果を公表しているか	公表している
	9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価をしているか	行っている
	9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	公表している
教育情報の公開	9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	50%

② 委員からの提言

教職員は学生のためとなると率先して多くの時間を費やしているが、継続的に成果を上げていくためにも働き方改革の側面からの業務管理を行うことも必要では。

(10) 基準 10 社会貢献・地域貢献

① 自己評価の状況

中項目	小項目	自己評価
社会貢献・地域貢献	10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	80%
	10-36-2 国際交流に取り組んでいるか	50%
ボランティア活動	10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	80%

② 委員からの提言

- 地域活動については中山道祭りへの参加など非常に積極的に行っていると思う。より一層の効果を高めるためにも、運営側に学生を参加させることを検討頂きたい。

(11) 総評

教職員全員が一丸となって学校運営・教育活動に取り組んでいる。多くの卒業生が実社会で活躍していることは、社会的貢献の意味で非常に大きな役割を果たしている。修業年限の中で、社会で即戦力となる知識技能や社会性を向上させる教育を提供していると思われる。また、学生生活においては様々な場面で学生とコミュニケーションを図り、学生の長所や特性を踏まえた上での指導が素晴らしい教育成果を上げている原点となっていることが推察される。学習相談のみならず、日々の生活における悩みなども教員・保護者と共有解決し、教員と学生がより密接にかかわることにより学生生活の満足度を高める事に期待をしている。今後も社会のニーズに対応した教育を継続して行うことが重要と考えられるため、重点課題の改善に向けた取り組みを反映させて欲しい。

学校関係者一同、今後も客観的な視点から様々な提言を投げかけることにより、大原こども専門学校が社会の信頼を益々得られるようにサポートして行きたい。

以上